

月報・日本から発信！

9月号の内容

「情報発信プラットフォーム」(8月)掲載の主要論文の要旨

米インド関係における(同様に重要な)別の側面

デビット・カール (パシフィック・カウンシル)

クリントン国務長官の先月のムンバイとニューデリーの五日間の凱旋は、多くのメディアの注目を浴び、政治家としての名士振りを見せつけた。インドの環境大臣による環境政策の拒絶は広く公表されたが、彼の言葉はクリントン夫人と同様に国内の人々に向けられたようであった。国防や核に関する協調の宣言もまた、多くの注目を集めた。末端の人々のモニター調査では、最先端の米軍の軍事技術をインドが購入することに同意し、さらに近年浮上してきた(暗に反中国色の)安全保障関係を強めている。.....

原文: The Other (Equally Important) Dimension of U.S.-India Relations
www.glocom.org/opinions/essays/20090812_karl_usindia/

アウン・サン・スー・チーの評決とASEANの含意

アリスター・クック&メリー・キャバレロ・アンソニー (南洋理工大学 RSIS)

2009年8月11日に、アウン・サン・スー・チー氏は、彼女の家まで泳いで行った招かれぬアメリカ人男性ジョン・ウィリアム・イェットを匿ったことで、自宅軟禁の条件を破ったとして、ミャンマーの法廷で有罪とされ、更に18ヶ月の自宅軟禁を課せられた。この裁定によって、この国は国内での進展はほとんど何も無いというシグナルを東南アジアと国際社会に送ったといえる。これは、ミャンマーでの進展に影響を与えようとするときの、同地域での限界を反映していると言える。.....

原文: Aung San Suu Kyi's Verdict: Implications for ASEAN
www.glocom.org/debates/20090814_cook_aung/

韓米関係の未来における韓国の展望

ジェホ・ファン (韓国国防研究院)

朝鮮半島を囲む絶えず変化するこの地域の安全は、流動的である。クリントン元米大統領が二人の捕らえられたジャーナリストを解放するために平壤を訪れ、5月の北の核実験以来初めて、対話に資する雰囲気を作り出した。しかしソウルは、長期的にも短期的にも、北東アジアの全てやより広範囲のアジアを含む、これら北朝鮮を越える安全保障上の懸念を有している。ここで私はこのような安全環境での混乱の変化のなかで将来の韓国と米国の同盟関係について概観してみたい。.....けれども、米国が考慮しなくてはならない幾つかの疑問点が.....

原文: A Korean Perspective on the Future of R.O.K.-U.S. Relations
www.glocom.org/opinions/essays/20090821_hwang_korean/

自己満足の余地のないオバマと東アジア

ジェラルド・カーティス (コロンビア大学)

オバマ大統領の東アジアの外交政策は、米国に大きな利益を齎した前政権の政策によって作られた、変革というよりも継続という点で特徴付けられている。しかし、そこには世界の紛争地域に注目し、焦点を当てる出来事に強いられて、急速に変化する東アジアの発展に政権は常に追いついていかななくてはならないことが求められ、それによって継続性は自己満足に変わる危険性がある。.....オバマ大統領は前任者が彼に残してくれた基盤に基づいた東アジア諸国との強い関係を築けるという機会を得ているが、彼自らそれを築かなければならない。.....

原文: Obama and East Asia: No Room for Complacency
www.glocom.org/debates/20090827_curtis_obama/

情報発信機構とは

「情報発信機構」は、日本をめぐる重要問題について有識者や専門家の意見や討論をグローバルに発信することを使命とする非営利組織。

ウェブ上では情報発信プラットフォーム(www.glocom.org)で、オピニオン、ディベート、ニュースなどを発信、またニュースレターやメールマガジンも定期的に発行。さらにセミナーも毎月開催。

情報発信ニュースレター：編集後記

月報・日本から発信！

月1回発行

発行人・編集長 前田幹博

学校法人国際大学・情報発信機構

949-7277

新潟県南魚沼市国際町777番地

TEL:090-8106-4700

Email:maedam@iuj.ac.jp

今月は上記4つを主要論文としてアップしました。総選挙は、大方の予想通り、あるいはそれ以上の結果を出し、民主党が与党第一党となりました。その民主党ははたして公約をどのような手法で実現していくのか、安全保障政策はどのようになるのか、興味深いところです。来月もご期待ください。 前田幹博